

第 61 回 日本原子力学会バックエンド部会全体会議 議事録

日時：2024 年 9 月 11 日（水） 12:05～12:45

会場：東北大学川内北キャンパス K 会場（講義棟 B 棟 2F B200）

【議事内容】

1. 小峯部会長挨拶

2. 2024 年度活動中間報告

2-1. 企画 A 報告

大会・年会における企画セッション、2024 年秋の大会のプログラム編成及び専門委員会の活動状況について報告した。

1) 企画セッション

- ・ 2024 年秋の大会におけるバックエンド部会 企画セッション「幌延国際共同プロジェクトの現状と今後の展開」の開催概要について報告した。

2024 年 9 月 11 日（水）13:00 ～ 14:30 K 会場（講義棟 B 棟 2F B200）	
座長：桐島 陽（東北大）	
幌延深地層研究計画における国際共同プロジェクトの重要性	青柳 和平（JAEA）
タスク A：物質移行試験	尾崎 裕介（JAEA）
タスク B：処分技術の実証と体系化	早野 明（JAEA）
タスク C：実規模の人工バリアシステムの解体試験	大野 宏和（JAEA）
総合討論	江橋 健（NUMO） 江守 稔（原環セ） 中田 弘太郎（電中研）

- ・ 2025 年春の年会における企画セッションに係り、企画のアイデア・希望があれば、運営委員まで連絡してもらおう依頼した。

2) プログラム編成委員

- ・ 2024 年秋の大会のプログラム編成について、各編成委員のご尽力を得たことを報告した。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物処理	桜木 智史 (原環センター)	有馬 立身(九大) 川崎 大介(福井大) 佐藤 淳也(JAEA)
505-2	放射性廃棄物処分と環境	中林 亮(電中研)	近藤 陽太(日立GE) 桜木 智史(原環センター) 中林 亮(電中研)
505-3	原子力施設の廃止措置技術	川崎 大介(福井大)	副島 吾郎(JAEA) 武田 匡樹(JAEA) 田窪 勇作(NUMO)

3) 専門委員会

- ・ 「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進に関する方法の検討」に関する特別専門委員会の検討成果（2024年9月3日プレスリリース）を報告した。学会誌においても近く活動報告が掲載される予定であることを併せて説明した。
 - 「語彙基盤（地層処分の言葉）」
地層処分に特有の用語の代表として「閉じ込めと隔離」、「地質環境」、「セーフティケース」、「安全評価」の4つを取り上げ、その理解を助けるための背景情報や解説を記載
 - 「語彙基盤（地層処分の言葉）を用いた安全コミュニケーションの提案」
様々なステークホルダーとの安全コミュニケーションで特に留意すべき事項を付属資料として記載

2-2.企画B報告

第40回バックエンド夏期セミナーの開催実績について報告した。台風10号接近の影響により、現地開催を中止し、オンライン開催に変更（2日目の見学会は中止）したことを併せて説明した。

- ・ セミナー開催概要は以下のとおり。参加登録者数は44名（うち、正会員29名、学生会員2名）であった。
 - とき : 2024年8月29日（木）
 - ところ : オンライン（TEAMS会議）
 - テーマ : バックエンド分野の社内的受容
 - 基調講演：地層処分が社会の信頼を得るにはどうすべきか？
東京電機大学 工学部 人間科学系列 寿楽 浩太 教授
 - グループ討議～パネルディスカッション

グループ討議の発表に引き続き、4名のパネラーにてパネルディスカッションを行った。パネラーは以下のとおり。

寿楽 浩太 教授：東京電機大学 工学部 人間科学系列

植田 昌俊 様：原子力発電環境整備機構 理事

龍原 毅 様：パシフィックコンサルタンツ(株) 国土基盤事業本部 チーフプロジェクトマネージャー

地井 桐理子 様：東海大学大学院 工学研究科 応用理化学専攻 原子力工学領域

➤ ポスターセッション：出展 15 件

ポスターについては、運営小委員による厳選なる審査により優秀ポスターを決定し、春の年会で表彰予定。

- ・ 講演再録、及び夏期セミナー参加記は部会誌 12 月号に掲載予定。

2-3.企画 C 報告

ポジション・ステートメント WG(PSWG)、及びバックエンド部会ポジション・ステートメント小委員会の活動について報告した。

1) ポジション・ステートメント WG(PSWG)

- ・ 8/14 付で当部会 PSWG 委員を柴田（勝）委員⇒竹田委員に交代。事務局へ連絡・承認済。
- ・ ポジション・ステートメント改革に伴い、現行 PS のうち、バックエンド部会が担当していた下記 2 つの PS を見直し作業中。
 - 「高レベル放射性廃棄物の地層処分 (PS003)」(提言⇒提言)
パブリックコメントへの対応作業中。9 月末に PSWG C チームへ PS 改訂案を提出、審議入り予定。
 - 「クリアランス (PS011)」(解説⇒提言)
PSWG B チームからのコメント対応作業終了。次は PSWG 本体での審議予定であったが、PS003 との同時のコメント対応が困難なため、PS011 の審議は中断中。再開時期は未定。

2) バックエンド部会ポジション・ステートメント小委員会

- ・ PS 改訂案へのパブリックコメント等への対応を目的とし、バックエンド部会細則第 4 条 (6) に基づき、7/1 付でバックエンド部会ポジション・ステートメント小委員会を新規に設置した。

役職名	氏名	所属	備考
委員	坂本 義昭	原子力機構	(前 部会長)
オブザーバー	北原 恭子	日本エヌ・ユー・エス	(前 企画 C 担当)

2-4.広報報告

令和6年度 部会 HP小委員会活動、及び2024年度週末基礎講座の開催概要について報告した。

1) R6年度 部会 HP 小委員会

① 部会ホームページの管理・運用(4/1～8/31)

- ・ 2023年度部会表彰報告・バックエンド部会誌 Vol.31, No.1 の HP 掲載
- ・ 第40回バックエンド夏期セミナー〔開催案内〕の掲載
- ・ 日本腐植物質学会第40回講演会（バックエンド部会協賛）〔開催案内〕の掲載

② バックエンド部会情報メールサービス（メーリングリストによる情報連絡）

- ・ 配信実績：R6度上期 14件（4/1～9/5）、配信先 394名（9/5現在）
- ・ 以下のお知らせとお願い事項について説明した。
 - メール配信開始/停止、及びアドレス変更は部会員からの申告によって行い、部会加入と連携していない。
 - 配信エラーが続くと自動的に配信停止となる。
 - メール配信ご希望の方、アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせいただきたい。

⇒e-mail :info@nuce.aesj.or.jp（部会ホームページ参照）

③ ホームページ小委員会メンバー（青字は新規）。

小林 大志	京都大学	広報委員(2023～)	HP更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
藤原 健壮	原子力機構	広報委員(2024～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
秋山 大輔	東北大学		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理

2) R6年度週末基礎講座

週末基礎講座の詳細については、部会ホームページおよび部会メール情報サービスにて案内する予定。

① 開催目的・趣旨

放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくこと。当分野に興味をお持ちの学生の方々、新たに業務や研究に携わる方々だけでなく、すでにこの分野でご活躍の方々に、改めて関連する知識を確認されたい方など、広くご参加いただくことが可能。

② 日程・場所

第1回 10月18日(金) 14:00～17:00（オンライン）…申込受付中

第2回 11月29日(金) 14:00～17:00 (オンライン)

第3回 12月6日(金) 14:00～17:00 (対面)

原子力機構 核燃料サイクル工学研究所 (予定)

③ 参加費

第1回・第2回： 無料

第3回：学会員 1,000円、非会員 2,000円、学生 無料

2-5.出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」の公開内容、及び出版小委の新体制について報告した。

1) 部会誌「原子力バックエンド研究」

Vol.31 No.1 をウェブサイトで開催中。内容は以下のとおり。

巻頭言	坂本 義昭	歴史を振り返り次の世代へ
研究論文	武田 匡樹	原位置トレーサー試験による堆積岩中の掘削損傷領域内の移流分散評価
研究論文	菊池 広人	堅置き・ブロック方式における緩衝材の流出量評価手法の検討
特集：ICRPサテライトイベント		
会議参加記	河内山 真美	「ICRP国際シンポジウムサテライトイベント」参加報告
講演再録	Hiroyuki SANADA	Safety Regulations of Radioactive Waste Disposal in Japan
	石田 圭輔	地層処分の処分場閉鎖後における放射線安全の評価に対するICRP勧告の適用
	佐々木 泰	六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターにおける浅地中処分の長期放射線安全の確保
特集：2023年度バックエンド週末基礎講座		
会議参加記	小鱈 匠	「2023年度バックエンド週末基礎講座」参加報告
講演再録	和田 翔吾	原子力施設の廃止措置における基礎知識と課題
	吉田 智哉	低レベル放射性廃棄物処分に関する基礎知識と課題
	松原 竜太	地層処分の基礎知識と課題
	小峯 秀雄	高レベル放射性廃棄物地層処分事業への参画意欲育成とスキルアップー土木工学の視点からー
会告		2023年度バックエンド部会表彰 バックエンド部会 関連行事予定

2) 出版小委の新体制

出版小委の役職及び分担概要は以下のとおり。

役職名	仕事概要	2024年度担当者（敬称略）	所属
編集長	全体の工程管理	川崎 大介	福井大学
副編集長	査読付き論文ハンドリング	鹿尾 康一郎	東京工業大学
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	高橋 友恵	株式会社IHI
	査読なし原稿ハンドリング		
副委員長	委員長補佐+工程管理補助	中林 亮	電力中央研究所
出版幹事	原稿（査読あり原稿は査読終了後、査読なし原稿は受領後）の出版（先行公開および部会誌）に向けての事務的仕事の統括	関口 高志	戸田建設株式会社
編集幹事	レイアウトを統括	吉田 智哉	日本原燃株式会社
レイアウト担当	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	市村 哲大	原子力発電環境整備機構
		湊 大輔	電力中央研究所
		中島 均	清水建設株式会社
		山田 淳夫	株式会社安藤・間
CD化 J Stage	CD化、J-Stage、会計を統括	安楽 總太郎	日本原子力研究開発機構
	論文のCD化	山田 文香	原子力環境整備促進・資金管理センター
	査読付き論文等のJ-stageへの登録	遼見 光	日本原子力研究開発機構
会計担当	支出、収入の会計処理	清水 洋平	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
HP	HP関連	古川 静枝	電力中央研究所

2-6.庶務報告

各支援制度とそれぞれの実績、優秀講演賞の選出予定について報告した。

1) 支援制度

① 海外発表助成制度

- ・ 若手研究者(35歳程度以下)の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・ 半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- ・ 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照

2023年度実績：上期分（2月10日締切） 応募なし

下期分（8月10日締切） 応募なし

2024年度実績：上期分（2月10日締切） 応募1件

⇒IRPA16（国際放射線防護学会 第16回国際会議）；米国

下期分（8月10日締切） 応募なし

② 研究会支援制度

- ・ 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・ 研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- ・ 会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・ 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・ 2023年度実績： 応募なし

- ・ 2024 年度実績： 8 月末時点で応募なし

2) 優秀講演賞

- ・ 2024 年春の年会および秋の大会において、優秀講演賞を 1 名選出予定、学生会員を対象とした学生優秀講演賞を 1 名選出予定。

	バックエンド 対象講演数※	内,学生会員 講演数
2024年 秋の大会	128	28
2024年 春の年会	71	20
2023年 秋の大会	175	36
2023年 春の年会	84	24

※)「放射性廃棄物」,「廃炉(廃止措置)」,「地層処分」のいずれかのワードを含む
一般セッションにおける発表

- ・ 各座長の採点結果に基づき、各大会における優秀講演賞、学生優秀講演賞を選出する。
2024 年春の年会・秋の大会の優秀講演賞を 2025 年春の年会全体会議において表彰予定。

2-7.会計報告

通常予算、セミナー予算、全体収支について報告した。

1) 通常予算

- ・ 収入の部：受取掲載料、受取配分金（BE 部会会費）
- ・ 支出の部：部会HPサーバー代、J-stage 登録費などの定例的な支出
- ・ 上期(4月～7月)の支出は少なく、通常予算は現時点で約 18 万円の黒字。

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	55,000	旅費交通費	0
受取配分金	335,000	通信運搬費	6,600
		消耗品費	0
		一般外注経費	201,190
		諸謝金	0
		雑費	0
		支払助成金(事)	0
		本部支払回収額	0
<小計>	390,000		207,790
<予算計画額>	585,000		620,000
<執行率>	67%		34%
<収支>			182,210

円

2) セミナー予算

- ・ 夏期セミナーの実績額が未確定のため、収入及び支出については次回報告予定。
- ・ 夏期セミナー、週末基礎講座共に収支均衡を保てる見込み。

②セミナー予算収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	0	会議費	0
受取見学会費	0	通信運搬費	0
賛助金	0	消耗品費	0
		一般外注経費	0
		出展費	0
		委託費	0
		雑費	0
		本部支払回収額	0
<小計>	0		0
<予算計画額>		1,460,000	
<執行率>		0%	
<収支>		0	

円

3) 全体収支

- ・ 上期（4月～7月末）は、予算計画内の執行状況。
- ・ 支出の多い下期の予算執行に留意して、引き続き適切な予算管理に努める。

全体収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
①通常予算	390,000	通常予算	207,790
②セミナー予算	0	セミナー予算	0
<合計>	390,000		207,790
<予算計画額>		2,045,000	
<執行率>		19%	
<収支>		182,210	

円

2. 審議事項

無し

3. 質疑応答

- ・ 夏期セミナーのテーマは良かったが、時間不足により最後の議論が中途半端で終わったのが残念であった。これで終わるのではなく、是非とも今後につなげて欲しい。
⇒小委間においても同様な意見が出ていた。オンゴーイングなテーマであり、次回以降にも繋げていくことを考える。
今回のように半日のセミナーでは時間が不足する為、例年翌日に行う見学会の前にラップアップしてはどうかと話していたところであり、次回計画に活かしていく。
- ・ 「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進

に関する方法の検討」に関する特別専門委員会においては、様々な専門家が参加して
どうすれば地層処分について説明できるか、どうすれば知らない人に伝わるか、につ
いて丁寧に説明した。内容については HP からもアクセスできるので、参照して欲しい。

—以 上—